

高梁市総合計画・前期基本計画
(第2期 高梁市まち・ひと・しごと総合戦略)
施策の進捗状況

令和7年10月

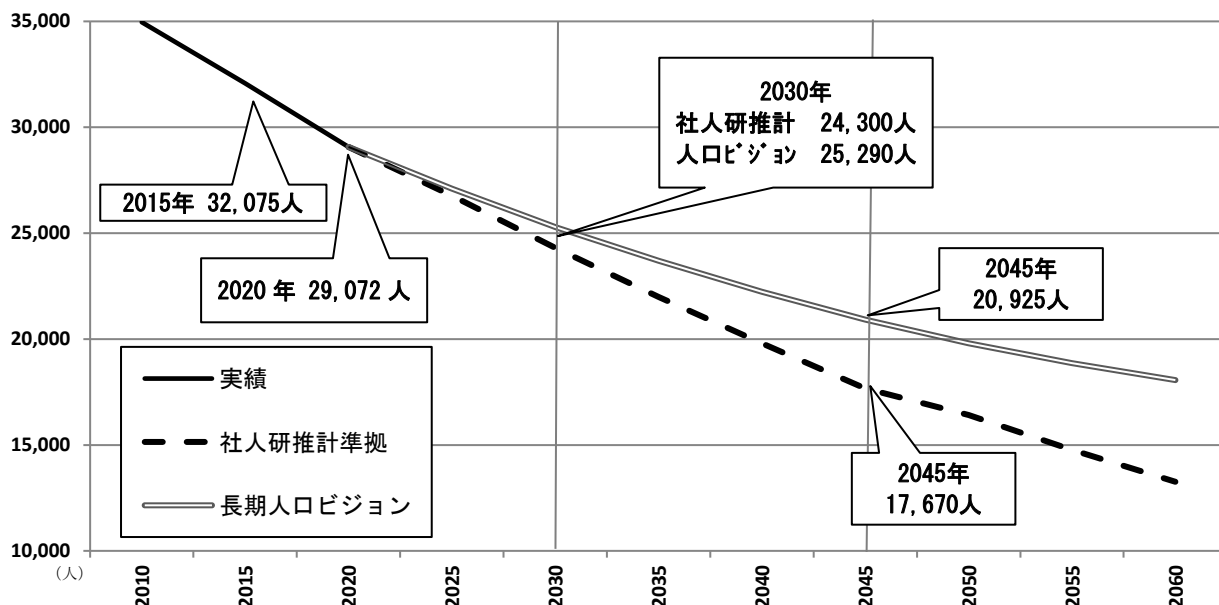
高 梁 市

目 次

1. 長期人口ビジョン達成に向けた基本目標の状況.....	1
2. 各施策の進捗状況（施策マネジメントより）.....	2
基本方針1 地域産業・地域資源を活かした活力あるまち	
政策1 地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます	
施策1 農林水産業の振興	2
施策2 農山村の振興	3
施策3 商工業の振興	4
施策4 新たな産業の創出と雇用環境の充実.....	5
政策2 観光交流人口を拡大し賑わいあるまちづくりを進めます	
施策1 観光の振興	6
基本方針2 美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち	
政策1 自然を守り環境にやさしいまちづくりを進めます	
施策1 環境保全対策の推進.....	8
施策2 循環型社会の形成	8
政策2 安心・安全なまちづくりを進めます	
施策1 生活安全対策の充実.....	10
政策3 都市機能の維持と快適な住環境の整備を進めます	
施策1 都市機能の維持・確保.....	11
施策2 公共交通手段の確保.....	12
施策3 社会インフラの充実.....	12
基本方針3 心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち	
政策1 健康で心豊かに暮らせる環境を整えます	
施策1 健康づくりの推進	14
施策2 地域包括ケアシステムの推進.....	15
施策3 地域医療体制の充実.....	16
施策4 感染症対策の推進	18
政策2 安心して子どもが生まれ育つことができる環境を整えます	
施策1 子育て支援の充実	18
政策3 みんなで支え合い助け合う地域福祉活動を進めます	
施策1 障害者（児）福祉の充実.....	20
施策2 高齢者福祉の充実	20
施策3 地域福祉活動の推進.....	21
基本方針4 たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち	
政策1 心身ともにたくましい子どもが育つ学校教育を進めます	
施策1 学校教育の充実	22
施策2 教育体制・環境の整備.....	23
政策2 生涯学習の機会を広げ文化・スポーツの振興を図ります	
施策1 生涯学習の推進	25
施策2 文化財の保存と活用.....	26
施策3 スポーツの振興	27
政策3 人権を大切にする共生のまちづくりを進めます	
施策1 人権尊重・男女共同参画社会の実現.....	29
施策2 多文化共生社会の実現.....	29
基本方針5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち	
政策1 市民が主役のまちづくりを進めます	
施策1 市民が主役のまちづくりの推進.....	31
施策2 公聴広報の推進	31
政策2 産学官民連携のまちづくりを進めます	
施策1 学園文化都市づくりの推進.....	33
政策3 持続可能な行財政運営を行います	
施策1 時代に対応した行政経営の確立.....	34
横断的政策1 人口減少対策に取り組みます	
施策1 移住・定住の促進	36
横断的政策2 災害に強いまちをつくりま	
施策1 防災対策の強化	38
横断的政策3 未来革新技术を活用します	
施策1 Society5.0 の推進	40

1. 長期人口ビジョン達成に向けた基本目標の状況

【長期人口ビジョン】



【長期人口ビジョン実現の前提条件】

- ①合計特殊出生率が徐々に向上し、2030年以降に国の長期ビジョンと同水準となる。
(2030年：1.8 2040年 2.07)
- ②転出超過となっている社会動態が徐々に改善し、2025年以降に均衡する。
(転入・転出の差がゼロとなる)

【長期人口ビジョン達成に向けた基本目標】

指標	現状値	実績値				目標値
人口の社会増減 (転入者－転出者)	H27～R1平均値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	R3～R7年平均値
	▲163人／年	▲349人／年	▲415人／年	▲334人／年	▲392人／年	▲79人／年

指標	現状値	実績値				目標値
年少人口(0～14歳)の割合	令和元年	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年
	9.1%	8.6%	8.3%	8.4%	8.2%	9.2%

※岡山県毎月流動人口調査（年報）より

【要因分析】

令和6年における人口の社会増減は、前年（▲334人／年）よりも転出超過は拡大した。特に日本人の社会減（▲347人、前年▲300人）が大きく影響しており、吉備国際大学の入学者数の減少が一因として挙げられる。

年少人口の割合は、前年よりも0.2%減少。出生数の減少が大きく影響し、依然として低い数値で推移している。

2. 各施策の進捗状況（施策マネジメントより）

基本方針 1	地域産業・地域資源を活かした活力あるまち
政策 1	地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます

施策 1 農林水産業の振興

1 市内産農林水産物の消費拡大に努めます
農産物の販売額について、単価の引き上げにより目標達成の見込みがある一方で、取組面積はぶどう、トマトともに減少傾向にある。高温障害などで収量の減少が見られるなど課題も多い。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
農産物直売所の販売額	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	494百万円	489百万円	496百万円	520百万円	523百万円	545百万円	
ぶどう販売額	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	1,007百万円	1,282百万円	1,197百万円	1,375百万円	1,204百万円	1,107百万円	
トマト販売額	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	356百万円	330百万円	359百万円	363百万円	338百万円	391百万円	

2 農林業の持続的な発展をめざします
新規就農者の確保は産地の維持の面からも重要である。就農の際の農地の確保として、湯野地区の造成地と合わせて、今後は平川地区も展開を行うことで、受入の強化につなげていく。担い手への集積率は、県目標に基づき設定しているが、到達は困難な状況である。地域計画内で農地の集積等を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
新規就農者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	9人	8人	17人	26人	35人	45人 (令和3年度からの累計)	
担い手への農地集積率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	20%	21%	14%	16%	17%	43%	

施策2 農山村の振興

1 農山村の活性化を図ります

農地保全の面では、多面的機能支払交付金の広域活動組織を立ち上げたことで取組集落の増加につながり目標を大きく上回ることができた。中山間地域等直接支払交付金については、5年ごとの見直し期でもあり、面積減少が免れない状況であったが、可能な限り継続できるよう働きかけを行った。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
中山間地域等直接支払制度対象農地	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	854ha	865ha	874ha	874ha	877ha	888ha	
多面的機能支払制度対象農地	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	269ha	249ha	229ha	231ha	231ha	279ha	

2 森林の保全と有効活用を図ります

補助金の単価について、実際の事業費との乖離がある場合があり、使いにくい制度になっている可能性がある。(〇里山林整備事業・・・1アール当たり18千円もしくは事業費の2/3の低い方 〇造林作業路新設補助・・・1路線300千円) 支援内容を周知し森林所有者が制度を活用することで森林の有する多面的機能の発揮、防災機能の強化につなげていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
里山林整備事業補助金	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	0.2ha	1.5ha	0.4ha	0.5ha	0.7ha	2.0ha	
造林作業路新設事業補助金	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	600m	300m	300m	300m	300m	900m	

3 有害鳥獣被害防止対策の充実を図ります

例年同程度の捕獲頭数であるが、国・県補助金の財源確保には苦慮しており、継続して要求していく。有害鳥獣に対する支援について、一部の制度については、利用率の向上と山林管理に対する意識の高揚を図ることを目的に、制度の見直しを検討する。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
有害鳥獣捕獲頭数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	野猪	野猪	野猪	野猪	野猪	野猪	
	2,405頭/年	1,546頭/年	2,943頭/年	1,741頭/年	2,288頭/年	2,700頭/年	
	野猿	野猿	野猿	野猿	野猿	野猿	
	62頭/年	93頭/年	124頭/年	96頭/年	118頭/年	100頭/年	

施策3 商工業の振興

1 商工業の活性化を支援します

令和4年度からの補助制度の見直しにより、栄町商店街ではニューエスカをはじめラーメン店、美容室、スポーツジム、運送事務所が出店するなど、往時の賑わいを取り戻しつつある。他地域においても新型コロナウイルス感染症の5類移行後、新規開業する事業者は増加傾向にあり、市内の商業振興及び地域経済の活性化が図られている。その一方で、既存店舗は経営者の高齢化や後継者不足により事業承継ができずに空き店舗が増加している状況にあり、親族内承継や第三者承継について関係機関と連携・協力し、支援していくことが必要である。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
商工団体会員数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	992人・団体	974人・団体	962人・団体	958人・団体	930人・団体	900人・団体	
助成制度を利用した新規事業所数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	7事業所	16事業所	20事業所	32事業所	39事業所	31事業所	(令和元年度からの累計)

2 経営力の向上を支援し、担い手・後継者を育成します

企業懇談会を開催し、その中のセミナーでは後継者に必要な知識・能力を身に付ける機会を提供し、交流会では企業間及び市との交流・情報交換により各企業を活性化させるとともに、意識改革や人材育成につなげ、毎年30名前後の多くの若手後継者が参加している。また、人材育成につながる資格取得、販路開拓・販売促進、新製品開発等に係る経費の一部を補助することにより、事業継続と経営強化を図った。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
助成制度を利用し経営革新や事業継承、リニューアルした事業所数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	2事業所	14事業所	24事業所	36事業所	51事業所	26事業所	(令和元年度からの累計)

3 地場産業の振興と企業誘致を推進します

有漢工業団地は売却相手方の企業が工場建築に取り掛かっており、令和7年度には操業開始の予定である。また、令和6年度から第2期造成工事に取り掛かっており令和7年度完了の予定である。今後も企業誘致等に向けて関係機関と調整を図り、新規団地造成や廃校、空き店舗の活用を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
事業所数(製造・小売)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	471事業所	464事業所	402事業所	402事業所	402事業所	440事業所	
誘致企業数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	0社	1社	1社	1社	1社	3社	
工業団地造成数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	1箇所	1箇所 4	1箇所	1箇所	1箇所	2箇所	(令和元年度からの累計)

施策4 新たな産業の創出と雇用環境の改善

1 新たな産業の創設に取り組みます

新たに創業を計画している者を支援するため、商工団体と連携して創業塾を開催し、創業に必要な知識等を得る機会を提供するとともに、汎用性が高く補助対象外とする事例が多い中で、本市ではパソコンやタブレット端末の購入に要する経費を補助対象とし、ICTを活用した新たなサービス等の推進を図っている。また、6次化産業を推進していくため、県普及指導センターや関係団体、庁内関係課と連携して、継続的に新製品開発や販路開拓・販売促進を行っていく。

2 安定した雇用の維持・創出に努めます

市内の有効求人倍率が高止まりし、慢性的な人材不足に陥っている中、市内の中学生、高校生、大学生を対象とした市内企業見学バスツアー等を継続的に開催し、若い世代の地元企業への理解度・愛着度を高め、将来的な市内企業への就職希望者の増大を図るための取組を行い、企業からは過去にバスツアーに参加した学生がこのツアーが契機となって当社へ入社したとの情報提供があるなど、その成果が表れてきている。その一方で、近隣市町や関係団体と連携し就職面接会を開催しているが、学生等の求職者の参加が依然として少ない状況にあり、市内企業の人材不足が深刻化している。

重要業績評価指標(KPI)	計画策定時	実績値					目標値
年間の市内新規学卒者数の市内就職決定者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	87人	71人	68人	55人	47人	100人	

3 新たな働き方を支援します

新型コロナウイルス感染症の拡大により、リモートワークなどの新しい働き方が浸透し、コロナの5類移行後も新たな働き方として定着している。市内に整備されたコワーキングスペース5件の利用を促し、新しい働き方の意識改革と多様な働き方を推進していく。

重要業績評価指標(KPI)	計画策定時	実績値					目標値
サテライトオフィス等の設置数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	0件	2件	3件	2件	5件	2件	

基本方針 1 地域産業・地域資源を活かした活力あるまち

政策 2 観光交流人口を拡大し賑わいあるまちづくりを進めます

施策 1 観光の振興

1 観光交流人口の拡大に努めます

備中松山城は「雲海」や「さんじゅーろー」、吹屋地区は「ジャパンレッド」などのキーワードを軸にマスコミや旅行会社などに幅広いプロモーションを展開するとともに、二次交通の充実などの基盤整備を進めてきた。特に「吹屋」においては、旧吹屋小学校や日本遺産センターのオープン、人気ゲーム「ポケモンGO」とのコラボ企画など、全国に向けた情報発信によって知名度が上昇するとともに、観光客も増加傾向であった。

しかしながら、観光客数の目標達成に至っていないのは、観光客数を主要有料施設への入館者数をカウントしていることから、入館者の減少が要因となっている。今後は入館施設自体の魅力向上を図るとともに、モデルコースの作成やカウント方法も変更していく必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
年間観光客数(主要施設)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	447,000人	195,375人	301,849人	290,000人	270,000人	600,000人	

2 地域での観光振興活動を支援します

コロナ禍ではイベントがほとんど中止となっていたが、それ以降は徐々にイベント開催が元に戻りつつあった。しかし、実行委員会の高齢化や人口減により長年続いていたイベントが中止、廃止になっている。地域だけでの継続が困難な状況下で、地域外の方を巻き込む仕組みを早急に構築する必要があるとともに、市外の方の来訪を取り込める魅力あるイベント開催を支援していく。また、今後のインバウンド需要に備えたガイド研修等にも積極的に取り組んでいく必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
観光ガイド活動実績	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	303件	189件	262件	177件	286件	363件	
ロケ支援件数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	31件	7件	28件	8件	7件	40件	

3 観光資源の掘り起こしやブラッシュアップによる魅力向上を図ります

DMOと連携し、二大観光地（備中松山城・吹屋）や他の観光資源の掘りおこしとブラッシュアップを図るために、旅行業者の売込み等により旅行商品の造成を進めている。また、観光施設（モノ）だけではなく、観光体験（コト）を新たな観光資源としていくため、様々な観点から本市の魅力向上を図り発信していく。さらに、周辺自治体（総社市・新見市・真庭市）と連携した広域ツアーのモデルコースの造成に着手していくことで、インバウンド需要を取り込んでいく必要がある。

4 観光振興を地域経済の発展につなげます

二次交通の強化（レンタカー事業の拡大、グリスロの導入）により、滞在時間の延長につながる基盤づくりを進めているが、認知されるまでに時間を要するため継続的なプロモーションが必要である。DMOでは、市内の事業者等と連携し魅力ある新商品や体験メニューの開発を進めており、市内での経済循環を目指していく。しかし「食」については以前として強化する必要があり、市内の関連団体や事業者、高校生等を含めて開発、販売につなげていくことが急務となっている。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
1人当たり観光消費額(日帰り)	平成28年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	2,780円	2,780円	2,699円	2,699円	4,200円	3,600円	
観光宿泊者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	34,121人	17,073人	29,002人	24,000人	23,350人	37,500人	

基本方針 2	美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち
政策 1	自然を守り環境にやさしいまちづくりを進めます

施策 1 環境保全対策の推進

1 環境保全活動に取り組みます

ここ数年、感染症対策や河川浚渫工事によるごみ投棄が少ないことから一堂に会してのクリーン活動はできていないが、環境衛生協議会を通じて、地域局や市民センター単位での一斉清掃活動は継続されており、目標とする市民参画・協働の環境づくりが図られている。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
高梁川流域クリーン作戦参加者	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	185人	0人	0人	0人	0人	250人	

2 地球温暖化対策に取り組みます

第2次環境基本計画及びゼロカーボンシティ宣言に掲げた取り組みを具体的に推進していくため、令和6年度に「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定し、市民・事業者・行政が協働・連携して脱炭素社会の実現を目指すこととした。

令和7年度は、スマートエネルギー導入促進事業や行政放送等の広報媒体を通じて情報発信を行うことで取組を推進していく。なお、スマートエネルギー導入促進事業は財源として国交付金・県補助金を充当しているが、財源確保が継続の課題である。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
エコチルドレン育成教室等の環境学習 の回数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	5回	5回	6回	10回	9回	12回	

※エコチルドレン育成教室：次世代を担う子どもたちに対する環境学習

施策 2 循環型社会の形成

1 ごみの適正な処理を推進します

循環型社会の形成をめざし、各施策、啓発を継続的に行ってきた結果、家庭系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ）の排出量は、5年で16%を超える削減率となった。

人口減少割合よりも家庭系ごみの削減率が上回ったため、一人当たりのごみの排出量（g/人・日）も横ばい傾向から減少（5年で6%）に転じている。

2 ごみの減量化・分別・リサイクルを進めます

町内会等の資源回収活動を支援、電池拠点回収などごみ減量化リサイクルを推進する取り組みのほか、広報紙、市HP、公式LINE、分別説明会、分別学習などを通じて啓発活動を行った。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
家庭系ごみの排出量(資源収集品を除く)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	597g/人・日	600g/人・日	590g/人・日	572g/人・日	558g/人・日	485g/人・日
ごみのリサイクル率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	14.2%	13.9%	13.8%	13.8%	12.9%	20.0%

基本方針 2	美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち
政策 2	安心・安全なまちづくりを進めます

施策 1 生活安全対策の充実

1 地域防犯対策の充実を図ります

防犯カメラの設置や高齢者を守る特殊詐欺対策機能付き電話の購入など、地域の防犯機能や市民一人ひとりの自主防犯意識を高めるための支援を継続して行うとともに、地域防犯団体との連携を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
犯罪認知件数(刑法犯)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	72件	50件	59件	64件	66件	48件	

2 消費者保護対策の充実を図ります

消費生活相談体制強化のため、継続的な啓発活動を推進する。あわせて、職員のスキルアップのための研修等に参加していく。

3 交通安全対策の充実を図ります

交通安全教室を継続して行うとともに、夜光反射材の活用や、自転車の安全利用をはじめとした交通安全の啓発を行い、市民一人ひとりが事故に遭わない、起こさない意識をもつことができるよう、啓発活動や街頭査察等交通安全に関する活動を関係機関と連携して行う。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
交通事故件数(総事故件数)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	619件	493件	573件	574件	582件	576件	

基本方針 2	美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち
政策 3	都市機能の維持と快適な住環境の整備を進めます

施策 1 都市機能の維持・確保

1 計画的な土地利用を推進します

年々県下一律で国の補助金割り当てが減ってきている。国の動向を注視しながら、今後の調査地区の再検討や航空写真や航空レーザー測量等のデータを活用した新たな手法による地籍調査の実施の検討をさらに深め、調査のスピードアップと効率化を図り、進捗率の向上に努めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
地籍調査事業進捗率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	95.4%	95.6%	95.9%	96.0%	95.0%	96.2%	

2 都市機能を維持します

都市計画区域において、都市機能や居住の誘導・集積に時間をかけて行う上で、必要な計画「高梁市立地適正化計画」を令和4年3月31日に策定公表した。これにより、都市機能誘導区域、居住誘導区域内に住宅、社会福祉、教育文化、商業施設等を緩やかに誘導し、人口密度を維持、持続可能なまちづくりに取り組んでいく。

都市計画道路下町薬師院線南町近似線については、令和7年度より用地買収を予定しており、令和12年度完了を目標に事業を行っている。用地買収については、岡山県土地開発公社による代行買収をすることとしており、早期の用地取得により、事業着手をする予定としている。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
都市計画道路整備延長	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	8,367m	8,367m	8,367m	8,367m	8,367m	8,467m	

3 住宅・宅地を整備します

子育て世帯向け住宅については、これまで6団地14戸を管理している。また、令和7年度に川面駅前に木造2階建の戸建て住宅を1戸建設予定。建設コストの上昇により財政負担が増加している。今後もこの状況が継続する恐れがある。

市営住宅管理戸数について、臥牛団地の計画的廃止が予定通り進み目標値を概ね達成した状況である。令和7年度で要望の大きい子育て世帯向け住宅等の整備により2戸増となるが、今後も高梁市公営住宅等長寿命化計画に沿って募集停止を行い、団地の廃止に取組み適正な管理戸数を目指す。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
子育て支援住宅の建設戸数(累計)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	13戸	13戸	14戸	14戸	14戸	17戸	
市営住宅管理戸数	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	1,021戸	1,017戸	1,012戸	1,012戸	931戸	927戸	

4 空き家対策に取り組みます

空き家情報バンクは、令和2年度から空き家の360°画像をWeb上で公開し、利用希望者が内覧をバーチャルで体験できるようにしている。また、地域ぐるみでの空き家の利活用に関する説明会も定期的におこなっており、令和6年度末現在で物件登録数・成約数ともに県下トップクラスの実績となっている。今後は、複雑化する空き家問題に包括的に対応するために、専門事業者への外部委託により空き家総合相談窓口を開設する予定としている。

重要業績評価指標(KPI)	計画策定時	実績値					目標値
空き家情報バンク新規登録物件数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	65件	29件	86件	76件	64件	70件	

施策2 公共交通手段の確保

1 利用しやすく効率的な公共交通を維持するとともに、公共交通機関の利用促進を図ります

令和2年3月～令和7年3月までの第2次高梁市地域公共交通網形成計画により、民間バス路線や生活福祉バス、乗合タクシーの一部について廃止等の見直しを行ってきた。令和6年度に「高梁市地域公共交通計画」を策定するにあたり、市民や利用者へのアンケートを実施した結果、公共交通サービスに関する満足度の評価は下がることとなった。この結果は、高齢化などの社会情勢の変化により近年では定時定路線運行のバスより、ドアツードアなどのタクシー形式（乗合タクシーを含む）での運行を求める意見が大きくなってきており、本市がそれに対して十分に対応できていない状況も一因として考えられる。

重要業績評価指標(KPI)	計画策定時	実績値					目標値
地域公共交通サービスに関する満足度 (アンケート調査の5段階評価平均点、満足5、やや満足4、どちらでもない3、やや不満2、不満1)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	3.09	毎年の調査なし	毎年の調査なし	毎年の調査なし	2.95	3.3	

施策3 社会インフラの充実

1 道路・橋梁の整備・管理に取り組みます

限られた予算内で道路改良等を計画的に実施するとともに、橋梁・トンネルの長寿命化計画に基づき定期的なメンテナンスを行うことで安心・安全なインフラ整備を行っている。

重要業績評価指標(KPI)	計画策定時	実績値					目標値
市道の規格改良率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	28.3%	28.3%	28.3%	28.3%	28.3%	28.6%	
市道の舗装率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	81.0%	81.0%	81.0%	81.1%	81.1%	81.5%	

2 上下水道施設の整備・管理に取り組みます

水道施設が老朽化しており、アセットマネジメントに基づく維持管理とは別に、老朽化による漏水修繕をはじめとした通常の修繕工事も多発しており、独立採算の水道会計を圧迫してきていることが課題となっている。また、経営戦略に基づく継続的な経営分析を定期的に行い、適切な時期において相当の使用料改定を検討することも必要となってきた。経営改善に向けた主要な取組として有収率の改善を掲げており、新たな漏水の早期発見、修繕にあわせ民間を活用した計画的な漏水調査も継続して行うことで、徐々に数値も改善してきている。予算の範囲内において、確実に管路の更新を図り、有収率を向上させていく。

下水道施設では、ストックマネジメント計画、耐水化計画に基づき、国県の補助金等を活用しながら財源確保に努め、計画的な施設更新を行う。

社会情勢の動向を注視しながら、経営状況に応じて経営戦略や使用料の見直しを行う。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
有収率(有収水量／総配水量) ※給水量と料金として収入のあった水量の比率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	77.1%	72.6%	76.5%	74.0%	74.5%		83.0%
下水道処理区域内の水洗化率 (接続人口／処理区域内人口)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	95.0%	96.0%	96.0%	95.9%	96.1%		97.0%

基本方針 3	心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち
政策 1	健康で心豊かに暮らせる環境を整えます

施策 1 健康づくりの推進

1 生活習慣病予防を推進します

特定健康診査の受診率は国や県と比較して依然として低く、特に40代、50代の若い世代の受診率が低い。医療費をみると、慢性腎臓病（透析あり）、糖尿病、高血圧症等の生活習慣病に関する疾病や大腸がんの医療費が高い状況は続いている。引き続き、未受診者対策を強化しながら受診率向上に取り組み、健康状態を把握できる人を増やすことで、生活習慣病の早期発見・早期治療につなげていく。また、生活習慣の改善、運動習慣の定着に向けた環境づくりと重症化リスクの高い人に対しては確実に個別保健指導を実施し重症化予防に取り組む。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
特定健診受診率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	29.3%	25.1%	26.1%	28.3%	28.8%	60.0%	
特定保健指導率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	28.9%	37.5%	41.1%	28.2%	16.8%	60.0%	
大腸がん検診受診率 50歳～69歳の男女※	平成29年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	8.4%	7.6%	5.6%	5.6%	6.0%	20.0%	
敷地内全面禁煙の実施施設 (市有施設数)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	53	53	52	53	43	148	

2 母子の健康づくり活動を推進します

赤ちゃん訪問、1.6歳児健診ともに100%と達成することができた。妊娠期からの伴走型支援を継続しながら切れ目ない支援を行っているが、多岐にわたる相談に対しての支援が課題となっている。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
生後4か月までの赤ちゃん訪問実施率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	94.5%	97.5%	100%	100%	100%	100%	
1歳6か月児健診受診率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	98.5%	93.5%	95.2%	97.8%	98.9%	100%	

3 心の健康づくりを推進します

愛育委員会を中心としたこころの健康教育、ゲートキーパー養成講座を各地域で実施することができた。しかし、対象者が限定されており今後は対象者を広げた健康教室等を行う必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
講演会・健康教室実施回数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	20回	22回	25回	22回	22回	30回	
ゲートキーパー養成講座受講者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	179人	230人	298人	733人	988人	500人	

施策2 地域包括ケアシステムの推進

1 介護予防・重度化防止の推進を図ります

元気なからだづくり隊は毎年1～2カ所新規登録グループがある一方、既存グループは活動がマンネリ化しやすい。そのため新たな体操（セラバンド）や運動指導士の派遣を行う、交流会の実施を行うなど継続して活動できるよう支援をしている。グループの登録に地域差があるため、現在登録がない地区に対しては新規グループ登録へ向けて働きかけが必要であり、また現在登録がある地区へも新規グループができるよう生活支援コーディネーターを中心に働きかけを行っていく。

「介護予防・日常生活支援総合事業」における通所型サービスBとして、巨瀬地域と有漢地域の市内2カ所で実施しており、昨年度末には高梁地域でも「ホッと広場たかはし」が立ち上がった。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
通いの場数(週1回以上実施)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	20箇所	21箇所	23箇所	24箇所	26箇所	31箇所

2 認知症施策の充実を図ります

認知症に対する正しい知識と理解を推進する啓発活動を継続し、認知症の人の生活を地域で支えるチームオレンジの活動継続のための支援を行う。認知症サポーター養成講座やステップアップ講座の開催により支援者を増やすとともに、認知症カフェの運営や本人ミーティングの開催により、認知症本人やその家族が集える場の確保、本人の思いを発信する支援に取り組み、認知症にやさしいまちづくりに活かす。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
認知症カフェ設置数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	9箇所	9箇所	9箇所	10箇所	9箇所	14箇所

3 生活支援体制の充実を図ります

令和6年度いきいき生活サポーター登録者30名、いきいき生活サポート事業利用者3名。令和5年度より、ボランティア養成講座では従来から開催していた高梁会場だけでなく、成羽会場も増やし2会場で開催。令和6年度はボランティア登録者がいない有漢地区で養成講座を開催した。サポーターの登録者は増加しているものの、利用者とボランティアのマッチングが課題となっている。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
生活支援ボランティア養成者数	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	0人	16人	20人	28人	30人	100人

4 介護分野で働く専門職の養成・確保を図ります

市と事業所が連携し介護人材の確保、介護職員の負担軽減を図ることで、適切なサービスが提供できる体制を構築する。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
介護福祉士養成修学支援事業による支援者の市内就職者数(延べ)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	0人	4人	6人	10人	12人	30人

施策3 地域医療体制の充実

1 持続可能な地域医療体制の充実に図ります

成羽病院として、自治医科大学卒業医師の派遣、地域卒業医師の採用による医師の確保を行った。また、令和5年に策定した高梁市国民健康保険成羽病院経営強化プランに基づき経営を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり経営状況が悪化しており、経営改善が喫緊の課題となっている。

令和3年度から医療機関が実施する奨学金制度への補助制度を開始、令和5年度以降本制度を活用した看護師が市内の各医療機関へ就職し始めており、卒業した学生の全員が市内就職へ繋がっている。

一方でコロナ禍以降、新入職者の早期離職が課題となっており、職場への定着に向けて高梁医師会（高梁かんごねっと）が主催する市内医療機関の新入職者研修やプリセプター研修、令和5年度から補助メニューを拡充して取り組んでいる。医療・介護従事者のスキルアップ研修は、専門職スタッフ数の減少等もあり、研修参加職員を派遣するのも苦労しているとの声もあった。来年度に向けて、開催時間等の見直しを行う予定であるが、スタッフ数も限られている中で大幅な増加は難しいと考える。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
看護師等奨学金貸付者等の市内就職者数(累計)	令和元年度 14人	令和3年度 17人	令和4年度 21人	令和5年度 23人	令和6年度 29人	令和7年度 26人
医療・介護従事者のスキルアップ研修会参加者数(延べ)	令和元年度 486人	令和3年度 342人	令和4年度 278人	令和5年度 277人	令和6年度 132人	令和7年度 490人

2 医療と介護の連携を推進します

多職種の研修は、コロナの影響により集合型研修の開催が困難な時期もあったが、令和6年度は参加者全員が対面する形で研修会およびグループワークを行い、約85%の人が満足したと回答するなど大変好評だった。今後も、集合形式での多職種連携研修会を開催する方向である。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
多職種連携研修会参加者数(延べ)	令和元年度 140人	令和3年度 77人	令和4年度 188人	令和5年度 181人	令和6年度 217人	令和7年度 140人

施策4 感染症対策の推進

1 感染症対策を推進します

感染防止対策としてワクチンが重症化予防に有効であることを、広報紙や高齢者が集まる地区健康教室、愛育委員、民生委員会等で説明し、高齢者施設に接種勧奨を行った。今後も、ワクチンの接種費用の助成を行い、まん延防止に取り組んでいく。

BCG 予防接種は、100%達成している。対象（持病のある児の出生、ワクチン接種を希望しない保護者）などにより変化する可能性があるため、赤ちゃん訪問、乳児健診において、接種の必要性について説明していく。また、結核についても感染者の発生があることから、結核健診の必要性について広く市民に周知をしていく。

就学前健診時にワクチンの接種勧奨を行っている。全国的に麻しんの患者発生や先天性風疹症候群を防ぐためにも引き続き、未接種者に対しては個別に勧奨をしていく。また、接種率の下がった要因として全国的なワクチンの供給不足も考えられる。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
高齢者のインフルエンザ 予防接種率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	58%	58%	56%	56%	53%	70%
BCG 予防接種率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	100%	100%	86%	100%	100%	100%
麻しん・風しん混合 2期 予防接種率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	97.12%	94.7%	95.9%	93.1%	94.0%	100%

基本方針 3	心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち
政策 2	安心して子どもが生まれ育つことができる環境を整えます

施策 1 子育て支援の充実

1 子どもの生きる力を育むための地域づくりを支援します

3市町連携事業で「ごろんアートフォトコンテスト」の実施、また、こどもまんなか応援サポーター宣言などにより、子育てが楽しいと感じられる気運の醸成を図った。ファミサポは、個別の声掛けによって会員数が増加。子育て応援チケットの交付や市公式 SNS の活用等によってサービスの認知度が高まり、利用件数や支援者からの利用相談も増えた。

こどもが安心して過ごすことができる居場所の確保（子ども食堂や学校再編後の学童保育の検討）が課題である。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
ファミリー・サポートセンターの提供会員・ 両方会員数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	28人	29人	28人	32人	31人	42人

2 切れ目のない子育て支援の充実を図ります

伴奏型相談支援等により妊娠期から子育て期まで切れ目のなく支援した。子育て施策等をライフステージ毎にまとめたチラシ作成や、子育て応援特設サイトを構築による子育て世代への情報発信の強化、多子世帯への経済的支援として応援金を交付した。また、男性の育児休業取得を促進するためパパ・ママ子育て応援企業の登録や奨励金を交付した。

子育て世代への情報発信強化の継続、子育て支援センターの利用者増加に向けた取り組みが必要。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
健診未受診者の把握率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	100%	100%	100%	100%	100%	100%
子育て支援センター利用率 ※0歳～2歳児の登録者割合	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	43%	32%	29%	31%	28%	50%

3 教育保育サービスの環境整備及び質の充実を図ります

R6.4におちあいこども園（私立）が開園、R7.4に高梁こども園（公立）を開園した。また、保護者が安心して子育てできるように、保育園等の入園要件の緩和（産後補助の拡大、育休中の継続利用）及びおむつ支援、こども誰でも通園事業を実施した。教育保育の質の向上については、就学前教育アドバイザー2名を配置し、研修体系を確立し、園に対し専門的な指導・助言を行うことができた。保育人材確保から維持への転換のために、保育士養成奨学金制度を廃止し奨学金返還支援助成制度を創設した。学童保育については、人材確保や質の向上を図るため R7.1 から民間委託を実施。

保育士等の研修時間確保のための業務改善、園児数減少に伴う民営化の研究・検討が必要。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
認定こども園の数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	4箇所	5箇所
一時預かり実施施設数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	3箇所
学童保育支援員資格保有率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	47%	51%	61%	71%	71%	70%

4 子育てに悩みを抱える家庭をサポートします

こども家庭センターを設置し、子育て世代包括支援センター（母子保健）と子ども家庭総合支援拠点（児童福祉）の機能を引き継ぎつつ、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもに対し一体的な相談支援や、児童虐待発生予防、発生時の迅速な対応を行うため、関係部署との連携・体制強化と啓発を図った。

課題は、サポートプランの受け皿となる新たな社会資源の開拓と、ひとり親家庭への経済的な自立への支援があげられる。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
虐待等についての啓発事業回数 ※民生委員会出席・学校訪問・広報活動	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	32回	45回	26回	49回	58回	50回
ひとり親就労相談による就職率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	36%	66%	25%	100%	67%	50%

基本方針 3	心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち
政策 3	みんなで支え合い助け合う地域福祉活動を進めます

施策 1 障害者（児）福祉の充実

1 障害者（児）の生活を支援します

障害者の重度化・高齢化や親亡き後を見据えた、居住支援のための機能を持つ「地域生活支援拠点」の整備に向けて、市自立支援協議会で協議、検討を継続してきた。令和6年度に高梁市の社会資源について整理し、令和7年度の整備に向けて前進した。一方、障害者の日中の居場所や生きがいくりの場所として、地域活動支援センターⅠ型のあり方の検討が課題である。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
地域活動支援センターⅠ型及び地域生活支援拠点の設置数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	1箇所	
一般就労移行者数(年度末人数)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	4人	4人	4人	4人	5人	8人	

2 希望に即した障害福祉サービスの充実を図ります

障害者が希望するサービスを受けるためには、効果的な相談支援サービスが提供できる体制の整備が必要であり、これまで障害者総合相談センターにおいて総合的に相談を受け付け、関係機関と連携を図り、障害福祉サービスに繋いでいる。今後は基幹相談支援センターとしての機能の充実を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
訪問系サービス(居宅介護)利用者数(月平均)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	19人	18人	19人	20人	18人	35人	

施策 2 高齢者福祉の充実

1 高齢者の生きがいくりと活躍の機会を支援します

雇用制度や年金制度の変化により、シニア世代の退職後の過ごし方も大きく変わり、「現役」を続行するシニア世代が増加している。そのため、会員数の大幅な増加は見込めず、段々と微減傾向にある。その中でもスキマ時間を有効活用できるような活動依頼や、周知の方法を工夫していく必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
シルバー人材センター事業 就労人数(延べ)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	13,966人	13,369人	12,757人	12,849人	12,104人	15,500人	

2 高齢者福祉サービスを推進します

R5実績（福祉移送サービス）移送延べ人数 4,901 人。R6は透析患者の会員の死亡・入院により大きく輸送人数が減少した。運転ボランティアの確保が課題である。運転者の確保のため、シルバー人材センターの配分金を最低賃金の引き上げに伴い増額した。そのことにより、事業費における公費負担割合が増加したため、利用者負担額を改正し、適正な負担を求め継続的な事業の運営を目指す。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
福祉移送サービス事業 利用人数(延べ)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	3,944人	4,350人	4,722人	4,901人	3,944人	4,000人	
健やか高齢者生きがい支援事業 利用人数(延べ)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	5,164人	3,087人	3,220人	3,048人	3,081人	5,400人	

施策3 地域福祉活動の推進

1 地域の福祉活動を推進します

令和3年4月1日から高梁市社会福祉協議会へ委託し高梁市権利擁護センターを設置している。成年後見制度の周知には力を入れ取組み、民生委員児童委員、福祉委員、金融機関、介護事業所や市民への出前講座など地道に説明に回り、相談件数は毎年著しく増加している。身寄りのない世帯からの相談が増加しており、身元保証・死後事務支援の必要性が高まっている。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
中核機関(権利擁護センター)における相談件数(延べ)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	179件	278件	345件	591件	630件	200件	

※現状値は中核機関設置前の相談件数

2 低所得者の生活を支援します

令和3年度から就労支援員を配置したことにより、ケースワーカーと連携して就労支援を行っている。ハローワークへの同行や面接練習などの支援を行い、就労後の様子の聞き取りなども行っている。年齢が上がるにつれて就労が難しくなり、不就労期間が長くなると更に厳しい状況があるため、根気よく就労支援を行っている。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
就労支援による被保護者就労者率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	23%	33%	33%	30%	32%	30%	

基本方針 4	たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち
政策 1	心身ともにたくましい子どもが育つ学校教育を進めます

施策 1 学校教育の充実

1 確かな学力の育成を図ります

一人一台端末の活用を促進するため、オンラインを活用した研修会の開催、アプリの活用頻度の見える化による意識付け等を重点的に行った。端末を日常的に活用していると回答した教員の割合は 9 割を超え非常に高い数値である。しかし、児童生徒の資質能力育成につながる効果的な活用については、十分でない。学校訪問等による授業参観と指導助言、学力向上担当者や研究主任等、ミドルリーダーを対象とした研修を行い、教員の授業力向上、各校における研修の充実を図っていく必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
全国学力・学習状況調査における平均正答率との差	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	小…公立全国平均	小…公立全国平均	小…公立全国平均	小…公立全国平均	小…公立全国平均	小…公立全国平均	小…公立全国平均
	-0.5	-3.9	-0.9	-1.6	-6.4	+1.0	
	中…公立全国平均	中…公立全国平均	中…公立全国平均	中…公立全国平均	中…公立全国平均	中…公立全国平均	中…公立全国平均
	-1.0	-0.2	+0.1	-1.8	-3.8	+1.0	
ICTを活用した指導・支援を日常的に行っている教員の割合	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	69.7%	91.5%	91.9%	92.8%	94.2%	100.0%	
校務支援ソフトのメニューを有効に活用している教員の割合	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	令和3年度より運用	—	87.8%	94.3%	94.4%	100.0%	

2 個に応じたきめ細やかな指導体制の充実を図ります

教員の特別支援教育に係る専門性を高めるため、支援員研修会、コーディネーター研修会、スキルアップ研修会を開催した。また、特別支援学級担任の特別支援学校免許状の取得を推奨したことで保有率が上昇している。通常学級の中にも、特別な支援を必要とする児童生徒は多く在籍している。全ての教員の特別支援教育に係る専門性を高めていくとともに、特別支援学校や療育等、関係機関と連携することで、指導支援の充実を図っていく必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
小中学校特別支援学級担任の特別支援学校教諭免許保有率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	46%	42.3%	55.2%	45.8%	53.5%	100%	

3 豊かな心と健やかな体を育てます

総合的な学習の時間等、地域で活躍する人の思いや願いを聞くことで、将来の夢や目標について考える機会となっている。中学校の不登校者数は減少したものの、小学校の数は増加傾向にある。不登校となった児童生徒に対する学校全体の対応力を高めていく必要がある。また同時に、児童生徒が学校に行きたいと思える魅力ある教育活動を展開するため、教科領域指導や特別活動等、児童生徒が主体となった取組を推進していく必要がある。

4 地域との連携を活かした教育を進めます

地域資源を活用した多様な取組が行われる中で、地域と学校が一体となり児童生徒を育てていくという意識が高まっている。一方、児童生徒にどのような力をつけたいのか、取組の目的が曖昧になっている状況も見られる。引き続き研修等を通じて、地域と連携した探究的な学習を推進していく。また、学校運営協議会等を通じて、学校と地域、保護者がどのような児童生徒を育てたいのかを共有した上で、教育活動を展開していく必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
「学校に行くのは楽しいと思う」児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査より)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	小6…81.2%	小6…88.1%	小6…88.7%	小6…80.8%	小6…89.8%	小6…100%	
	中3…84.6%	中3…83.2%	中3…74.4%	中3…90.0%	中3…91.5%	中3…100%	
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査より)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	小6…96.0%	小6…97.6%	小6…96.9%	小6…96.2%	小6…98.6%	小6…100%	
	中3…97.0%	中3…95.2%	中3…96.2%	中3…98.9%	中3…98.8%	中3…100%	
「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査より)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	小6…84.6%	小6…89.2%	小6…83.6%	小6…76.9%	小6…75.5%	小6…100%	
	中3…72.7%	中3…78.9%	中3…66.3%	中3…74.6%	中3…78.6%	中3…100%	

施策2 教育体制・環境の整備

1 適切な学校配置と一貫した教育体制づくりをめざします

高梁市独自の学級編制を令和3年度から小学校1学級30人以下に、令和4年度から中学校1学級35人以下に引き下げたところ、きめ細やかな指導等の実現や教室のゆとりの確保ができた。今後も引き続き、市独自の学級編成を行い、教育効果を向上させていきたい。全ての学校園において、「高梁市の一貫教育全体構想図」「たかはしベーシック」の内容をカリキュラムに位置付け実施するとともに、各種研修会等を活用し、保幼こ小中の担当者同士で協議する場を設定するなど、中学校区等において具体的実践を進める。急速な出生数の低下に対応するため、学校園適正配置検討委員会を設置し、検討された報告書を基に意見聴取会での意見や課題等を踏まえ、令和6年11月に高梁市立学校園適正配置計画を策定した。小規模校の環境を活かした学校環境整備を進めるとともに、令和7年4月には本市初となる義務教育学校を開校した。しかしながら、今後も児童・生徒数の減少が見込まれるため、状況に合わせて再編の対応をしていく必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
「近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った」学校の割合(全国学力・学習状況調査より)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	小…60.0%	小…46.2%	小…85.7%	小…58.3%	—	小…85.0%	
	中…83.3%	中…100%	中…83.3%	中…83.3%	—	中…100%	

2 安心・安全な給食の提供と食育を推進します

野菜等、JAの協力により使用率の拡大を図ってきたが、市場の廃止もあり市内産野菜の使用率低下は避けられない状況のため、今後は県内産品の使用率の向上を目指していきたい。また、食育の面では栄養教諭が受配校において、「食に関する指導」のカリキュラムにより、栄養のバランス、地産地消、フードロス等の指導を行い、給食を生きた教材として活用している。今後も関係機関と連携しながら、安心安全な給食を提供するとともに、子どもたちや保護者に食の大切さを伝えていく。学校給食センターの再編と調理等業務の民間委託について、給食センター再編検討委員会からの提言書を受け、令和5年12月に高梁市立学校給食センター再編方針を策定した。再編方針に基づき、令和8年4月の給食センターの再編及び民間委託の実施に向けて取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
学校給食での市内産品の使用率※	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	14.9%	16.6%	21.3%	11.6%	8.9%	50.0%

※ 全使用品目に対する市内産分の延べ使用回数割合を年2回(各1週間)集計したもの

3 学校施設・設備の充実を図ります

I C T環境については、1人1台端末と普通教室への電子黒板の配備が完了し、電子黒板は特別教室へも概ね配備できている。施設整備については、長寿命化計画に基づき施設の改修、解体など含め、法令で必須とされる整備を優先的に進めてきたが、施設の老朽化が進む中で適正配置、財源の確保を含めて検討していく必要がある。教育環境の質的改善については、利用頻度が高い特別教室への空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化及びL E D化を順次進めている。特にL E D化については、屋内運動場の水銀灯及びハロゲン灯は既に生産中止していること、また令和9年には蛍光灯の生産が終了することから早急に進める必要があり、順次改修を進める。また、屋内運動場への空調設備の設置についても検討していく必要がある。学校の跡地については、現状ではほとんど活用に至っていないが、今後も統廃合により学校跡地が増加していく中で、有効な利活用を関係各課と連携し検討していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
教室への電子黒板等の設置率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	22.3%	75.1%	78.1%	78.1%	78.0%	100%
空調設備の特別教室整備率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	63.0%	68.5%	75.1%	74.9%	76.0%	85.0%
トイレの洋式化率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	46.7%	50.1%	52.7%	54.4%	69.3%	70.0%

基本方針 4 たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち

政策 2 生涯学習の機会を広げ文化・スポーツの振興を図ります

施策 1 生涯学習の推進

1 生涯学習活動を推進します

公民館講座受講者数は、コロナ禍を脱したものの年配の方々が人の集まるところを敬遠する傾向があること、高齢化により外出自体が困難になっている状況、あわせて人口減少の影響を受け目標値との乖離が生じている。こうした中、令和5年度から公民館を中心とした「レインボープロジェクト」を実施し、子どもたちを核として地域課題の解決を試みる取り組みを開始し、令和6年度は4事業を実施した。令和6年度には、たかはし広がる子どもの夢事業を拡充し、子どもたちを地域で育むことを目的とし、地元企業が自ら企画・提案を行う「わくわくワーク」に取り組み、地域に密着した生涯学習の推進や若者が地域の担い手となり活躍できる社会の実現に向け取り組んでいる。

また、令和7年3月に高梁市社会教育委員会議から教育委員会へ提言がなされ、今後は若者が地域課題解決や地域づくりに取り組み、若者の「居場所と出番づくり」を意識し生涯学習を推進することが求められている。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
公民館講座受講者数(延べ)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	17,880人	7,304人	6,819人	9,463人	9,985人	20,000人
青少年の体験講座等の参加者数(延べ)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	1,839人	1,474人	957人	1,650人	2,108人	2,000人

2 社会教育施設の充実を図ります

新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、5類移行後、高梁市図書館の来館者は50万人を超える水準を維持するなど、社会教育施設の利用状況は緩やかな回復傾向にある。特に図書館では指定管理者の持つノウハウを活かし、地域活性化・賑わい創出を目的としたイベントを館内外で実施しており、目標を大きく上回る状況である。

他の社会教育施設では、高梁市文化交流館1階等の改修工事や有漢生涯学習センターWi-Fi環境の構築工事等を実施し、子育て世代や若年層の施設利用が定着しつつある。また、川上総合学習センターホール改修工事に取り組んでおり、誰もが気軽に社会教育施設を活用でき、多様化・高度化する学習ニーズに対応できる環境整備を図っている。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
図書館主催の講座等の参加者数(延べ)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	5,953人	10,848人	12,789人	11,986人	12,942人	7,000人
図書館(室)の市民一人当たり貸出冊数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	7.4冊	7.5冊	6.4冊	7.0冊	7.0冊	10冊

3 地域文化・芸術活動の振興を図ります

新型コロナウイルス感染症の拡大等により、文化・芸術活動においても影響を受けた。その中において、各文化協会を取りまとめる文化連盟に対して補助金の交付を行い、文化芸術活動の維持に繋げることができた。課題としては、文化・芸術諸団体の中には高齢化や団体の担い手不足等により、これまでの活動を継続することが困難になりつつある団体もある。そのため、これまでと同様に補助金によって金銭的な援助をするとともに、団体間の交流・連携等を情報共有や課題解決につなげ、各団体活動の活性化を図る必要がある。また各美術館においては、地元ではなかなか鑑賞することのできない芸術等の展示会を計画的に実施し、芸術に触れる機会を提供することができた。歴史美術館や漫画美術館においては、展示方法の見直しや施設の見直し（開館日、体制等）を図るとともに、地域に開かれた館となるべく運営方針を検討しているところである。市民の関心と学習意欲に応えるような文化講座や芸術・文化の鑑賞機会を提供するため、近隣市の芸術・文化事業の状況の研究や公民館活動の活性化を通じて、充実した機会の提供が図れるよう努める。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
文化連盟・文化協会主催の文化祭等の入場者数	令和元年度 3,595人	令和3年度 1,576人	令和4年度 2,484人	令和5年度 2,476人	令和6年度 1,619人	令和7年度 3,700人
歴史美術館入館者数	令和元年度 ※1,663人	令和3年度 2,626人	令和4年度 1,301人	令和5年度 8,449人	令和6年度 1,466人	令和7年度 3,000人
成羽美術館入館者数	令和元年度 17,851人	令和3年度 17,587人	令和4年度 10,728人	令和5年度 18,349人	令和6年度 20,471人	令和7年度 20,000人
吉備川上ふれあい漫画美術館入館者数	令和元年度 10,848人	令和3年度 7,658人	令和4年度 8,666人	令和5年度 8,815人	令和6年度 10,686人	令和7年度 12,000人
山田方谷記念館入館者数	令和元年度 4,936人	令和3年度 1,988人	令和4年度 2,722人	令和5年度 3,657人	令和6年度 3,336人	令和7年度 5,000人

※令和元年度は、収蔵庫空調改修工事により上半期を休館としたため、通常より減少している。

施策2 文化財の保存と活用

1 文化財の保護・保存と有効活用を図ります

期間中、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響が大きく、各施設ともに入館者数は減少している。備中松山城や旧片山家住宅については適切に保存を行い、二重櫓の特別公開を行うなど、積極的に公開を図った。また史跡備中松山城跡については、計画的な整備を行い、大池周辺の環境整備や石垣の積み直し、また発掘調査を実施し、現地説明会を開催するなど広く公開に努めた。

旧吹屋小学校は、令和3年度末に保存修理が完了し、文化財を後世まで継承していく基盤ができあがった。市指定重要文化財「旧高梁尋常高等小学校本館」の保存修理を行うとともに、県指定重要文化財「松連寺本堂天井と船戸」の保存修理に対して補助を行うなど、文化財の保存に努めた。

備中神楽等の民俗芸能については、保存継承を行う団体に対して、活動に対する助成を行うとともに、保存継承に必要な用具の整備に対する助成を行った。

文化財の調査を通じて、新たに「夫婦岩」が令和7年3月に岡山県指定名勝に指定された。

他の文化財においても文化財の保存に関する相談件数などは増加傾向にあり、そうした相談には丁寧に対応するとともに、文化財の保存を前提としながらも、活用を図っていく方法を模索する必要がある。さらに各種事業、文化財の調査等は継続して実施し、必要に応じて現地説明会や講座等を実施するなど、文化財に触れる機会を提供する。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
国指定文化財備中松山城入城者数	令和元年度 99,267人	令和3年度 45,909人	令和4年度 67,813人	令和5年度 65,939人	令和6年度 62,541人	令和7年度 120,000人
臥牛山のサル生息数	令和元年度 145頭	令和3年度 138頭	令和4年度 138頭	令和5年度 134頭	令和6年度 134頭	令和7年度 135頭

2 歴史を活かしたまちづくりを推進します

高梁市歴史的風致維持向上計画（第2期）に基づき、歴史的建造物や伝統的活動で形成された歴史的風致を維持向上させる事業に取り組んだ。旧吹屋小学校の改修や道路の美装化など着実に進めているほか、景観形成建造物候補の追加指定も行った。今後も計画に基づき事業を進めていく。歴史的町並み保存地区整備事業は、城下町の風情を残す町並みの保全に一定の成果をあげているが、空き家や空き地、歴史的景観にそぐわない建造物等は変わらず増加しており、今後も取り組みを続けながら住民の理解を得られるよう努力していく。日本遺産は令和2年度に認定され、令和7年度が最終年度となる。地域活性化計画に基づき日本遺産センターや案内看板の設置、動画配信やブランド商品の開発などの事業を進めている。令和8年度の審査に向け引き続き目標達成に努める。吹屋伝統的建造物群保存地区においては、期間中を通じて、1件の事業規模にもよるが、毎年1～2件について、地元の吹屋町並保存会と連携しながら、家屋の保存修理・修景を実施した。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
吹屋伝統的建造物群保存地区保存修理事業実施件数(累計)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	146件	151件	153件	154件	155件	160件
旧片山家住宅入館者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	8,114人	7,182人	7,150人	6,036人	5,991人	9,800人
旧吹屋小学校日本遺産センター(仮称)入場者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	—	—	30,582人	28,208人	16,990人	25,000人

施策3 スポーツの振興

1 ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します

スポーツ協会の組織力強化、生涯スポーツの推進、総合型地域スポーツクラブの育成・支援、スポーツ推進委員の活動支援、スポーツ教室の開催等を実施し、スポーツ活動も活発になってきている。しかし、総合型地域スポーツクラブ「ピオーネ」の活動は、コロナ禍のあおりを受け、参加人数が減少した。今後、参加人数を回復する為の手立ての構築や市の後方支援が課題。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
総合型地域スポーツクラブの加入者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	208人	154人	123人	112人	113人	230人

2 スポーツを通じた青少年の育成を図ります

サッカー3ライズリーグ（年2回）、小中学校と連携した「夢の教室」（ユメセン）、トップレベルの選手やチーム、大学による講習会を開催し、スポーツ技術の向上と競技人口の拡大を図る取組、スポーツ少年団の支援など関係団体等との連携により、計画どおりの取り組みを実施できている。しかしながら、コロナ禍の影響で小中学生の体力低下が顕著に表れており、今後もスポーツを通じた青少年の育成や指導者の育成を図っていく必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
小学校(5年生)・中学校(2年生)体力テストのAB段階獲得率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	48.7%	51.9%	44.6%	46.0%	45.7%	50.0%

3 スポーツ施設の充実と広域的なスポーツを推進します

施設整備については、老朽化している施設の改修や利便性の向上のため、施設改修整備（照明設備・テニスコート・野球場内野等の整備）を行ったが、今後、管理員の高齢化や人手不足、修繕費の高騰等により、継続的に施設運営と維持管理ができるかが課題である。

広域的なスポーツ推進では、吉備国際大学シャルム岡山高粱の組織・チーム力を強化するための運営補助、マラソン大会、自転車を活用したまちづくりに力を入れた。また、市内スポーツ施設を活用した合宿誘致に力を入れ、現内外から多くの利用者があった。今後も、宿泊施設事業者と連携を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
市外との交流を含む広域的なスポーツ機会への参加者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	15,000人	6,000人	10,570人	11,769人	14,300人	16,000人
市外からのスポーツ合宿者受入人数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	1,600人	320人	2,500人	4,209人	4,082人	1,800人

基本方針 4	たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち
政策 3	人権を大切にする共生のまちづくりを進めます

施策 1 人権尊重・男女共同参画社会の実現

1 人権が尊重される社会の実現に取り組みます

配偶者からの暴力などによる人権侵害に対する相談については、被害者からの相談をしやすいようにため相談窓口の周知を図っている。また、男女共同参画月間(11月)及び女性に対する暴力をなくす運動(11月12日～11月25日)に合わせて、パープルリボン&オレンジリボンの展示等による周知啓発を行っている。関係機関・団体と連携した人権の花運動や人権スポーツふれあい教室の開催、啓発リーフレットの作成・配布など、今後も幼少期からの人権教育や継続した啓発活動を行っていく。

2 男女共同参画社会の実現に取り組みます

男女共同参画の取組は関係各課の取組も関わってくるため、部会等で各課の事業内容を把握しながら、第3次高梁市男女共同参画基本計画の数値目標達成のため連携して各種事業を行ってきた。これまでの取組を継続しながら、第4次高梁市男女共同参画基本計画の策定に向けては、現在策定中の国の第6次男女共同参画基本計画および県の第6次おかやまウィズプランの動向も踏まえ、現在の社会情勢に合った内容としていく必要がある。

重要業績評価指標(KPI)	計画策定時	実績値				目標値
審議会・委員会等における女性委員の割合	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	20.7%	23.6%	22.4%	22.4%	23.0%	40%
市民意識調査の「男は仕事、女は家庭」という考え方について「同感しない」と回答した割合	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	76.9%	毎年調査なし	毎年調査なし	毎年調査なし	毎年調査なし	100%

施策 2 多文化共生社会の実現

1 国際感覚豊かな人材を育成します

国際姉妹都市トロイ市や、教育交流協定を締結している仏アンペール高校との交流は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で相互訪問は中断していたが令和5年度に再開。令和5年度は中学生11名をトロイ市へ、高校生5名をアンペール高校へ派遣した。令和7年度では中学生12名をトロイ市へ派遣予定。しかし近年相手方から生徒の派遣がなく、相互交流となっているかという点で課題が残った。他に、市民と高梁市在住の外国人との交流を目的としたイングリッシュキャンプを年1回程度開催している。

2 多文化共生社会の実現に取り組みます

現在実施している日本語教室は、外国人市民にとって交流・相談や異文化理解の場にもなっている。日本語のスキルアップのためには、教室への継続的な参加が望ましい。そのため、日程や開催場所の工夫など、参加しやすい教室づくりを目指す必要がある。また、持続可能な多文化共生の推進体制を構築していくため、令和6年4月から多文化共生分野担当の地域おこし協力隊が着任した。

外国人市民の孤立化を防ぐとともに、市民の異文化理解を促進するため、地域・大学・企業等と連携して交流事業に取り組んでいく。

重要業績評価指標(KPI)	計画策定時	実績値				目標値
市国際交流協議会が主催(支援)する交流イベントへの外国人市民参加者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	46人	16人	26人	65人	72人	150人
市国際交流協議会の企業会員数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	0	0	3	3	5	6
ボランティア通訳登録者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	4人	10人	11人	8人	6人	10人

基本方針 5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち

政策 1 市民が主役のまちづくりを進めます

施策 1 市民が主役のまちづくりの推進

1 協働が進む環境を整えます

各種団体・まちづくり協議会等との連携、支援により環境整備に取り組んでいるが、イベントやまちづくり活動は、地域の人口減少や高齢化により規模縮小や事業中止といった状況が見受けられる。引き続き、各種団体・まちづくり協議会等と連携し、人々の交流を促進するとともに、まちづくりの取り組みや活動を支援していく。人口減少も顕著であるため、地域の担い手確保の対策や地域負担の軽減となる取り組みを検討していく必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
市民提案型事業の取組団体数	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	4団体	6団体	3団体	4団体	3団体	6団体

2 主体的な住民活動を推進します

地域振興基金を活用して地域それぞれのまちづくり活動の維持・向上につながる取り組みに補助を行っている。平成27年度に各地域に1億円の配分を行い、まちづくり活動への支援に活用してきたが、地域によって残額に差が生じており枯渇することも見据えることが必要となってきた。枯渇することでまちづくり活動への多大な影響が生じることが考えられるため、令和6年度からふるさと納税の活用による基金の延命化を図っている。

3 市民団体の育成と連携を図ります

令和6年度は市民提案型まちづくり支援事業に6団体からの応募があり、4団体を採択している。毎年4～8団体の応募があるが審査もあるため、予算に残額が生じている状況であり、令和7年度に至っては応募団体が1件のみとなっている。事業の周知や団体の育成が不足していることも考えられるが、10年経過した事業実施の見直しも含めて今後の活用を検討する必要がある。

施策 2 公聴広報の推進

1 公聴活動を推進します

令和6年度は、まちづくり協議会（宇治地域まちづくり推進委員会、松原地域まちづくり推進委員会、川上地域まちづくり協議会）、平川地区コミュニティ協議会において実施。令和6年度に実施方法の見直しを行い、令和7年度から「市長と語ろう会」を「市長と気軽にトーク」へリニューアルし、市民の方々の声の届く市政を推進することを目的として、市内在住・在勤・在学している方で構成された団体（少人数）で開催を行う事となった。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
市長と語ろう会開催回数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	3回	1回	4回	2回	4回	6回

2 積極的に行政情報を提供します

若い世代に対して市からの情報が届きにくいという声を踏まえ、市のウェブサイトの充実を図った。SNS での情報発信についても、情報発信数の大幅増加に取り組んだ。（参考：Instagram(R5：29 投稿 R6：204 投稿) LINE(R5：32 投稿 R6：97 投稿)）今後は、SNS 活用の戦略的に進めるため、年代・関心・ライフスタイルに応じて、発信する情報と媒体（Instagram＝若年層、LINE＝市民向けの情報を発信、X＝速報性重視）を使い分けて情報発信することを研究する。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
市ウェブサイトの年間閲覧件数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	239万件	353万件	292万件	237万件	213万件	300万件

基本方針 5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち

政策 2 産学官民連携のまちづくりを進めます

施策 1 学園文化都市づくりの推進

1 魅力ある大学づくりと大学のまちを発信します

令和4年度から始めた魅力ある大学づくり支援事業補助金は、吉備国際大学の全入学者を対象とする特別奨学金制度のほか、設備改修等の大学の魅力化資する事業に活用されている。このことをオープンキャンパス時などに積極的にPRを行ったことが功を奏し、令和5年度まで減少が続いていた大学入学者数は増加に転じている。また、令和4年度から高梁の地域の魅力や価値を学ぶ機会として提供している「備中高梁まるごとキャンパス」や高梁の地域課題の解決等の取り組みを支援する「高梁みらい共創チャレンジ」は、若者に高梁をより知ってもらう目的も持っており、一人でも多くの学生に卒業後に高梁へ残ってもらえるよう、引き続き取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
吉備国際大学学生の市内就職者数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	7人	7人	5人	8人	10人	34人	

2 産学官民の連携を強化します

大学を中心として関係団体で協議を進めてきた「地域連携プラットフォーム（仮称）」の設立が頓挫したため、産学官の連携強化に向けた新たな体制整備を模索している状況にある。一方で、高校生・大学生等が地域の魅力や課題について考え、提案・発信する取組が生まれており、また、市民主体の取組の中で学生と地域をつなぐコーディネーター人材の育成が図られている。今後はこうしたキーパーソンや関係団体との連携により、教育、産業、福祉など様々な分野において高校・大学との連携を深め、人材育成と地域課題解決につなげていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
『地域連携プラットフォーム（仮称）』参画企業・団体等との共同事業数	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	0件	0件	0件	0件	0件	4件	

基本方針 5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち

政策 3 持続可能な行財政運営を行います

施策 1 時代に対応した行政経営の確立

1 行政サービス改革を進めます

人口減少や少子高齢化による行政資源の減少が見込まれる一方で行政サービスの多様化が進む中、安定的な収入源の確保や将来を見据えた行政サービスの見直しなどにより、行財政運営を継続させることを目的とした行財政改革プランを実施し、税収納率の向上やふるさと納税の寄付増額、施設使用料の見直しなどの財源の確保には一定の成果を得たが、引き続き、事務事業の見直しや業務の効率化にあわせて職員数の適正化を図ることや公共施設の整理を進めるなどのさらなる取り組みが必要とされる。

2 健全な財政運営を進めます

予算執行率 80%未満の事業等について、原則、継続事業として認めないなど、これまでの事業の必要性の検討を行うとともに、各種補助金等を最大限に活用することで歳入を確保することで、事業の選択と集中に努めた。今後は、3大建設事業に伴う公債費の増額と物価高騰による各種事業費の増加が見込まれる。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
市税現年分収納率	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	98.9%	99.1%	99.1%	99.1%	99.2%	99.1%
財政運営の健全化	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	経常収支比率	経常収支比率	経常収支比率	経常収支比率	経常収支比率	経常収支比率
	96.3%	91.0%	96.2%	96.0%	96.7%	96.0%
	実質公債費比率	実質公債費比率	実質公債費比率	実質公債費比率	実質公債費比率	実質公債費比率
	12.6%	11.9%	11.8%	11.3%	11.4%	13.7%
	将来負担比率	将来負担比率	将来負担比率	将来負担比率	将来負担比率	将来負担比率
	80.8%	70.9%	52.2%	48.1%	57.9%	79.0%

3 公共施設等の適正管理と市有財産の有効活用を進めます

3 取組の成果・課題（「施策の展開方針」に沿って、特に力を入れて取り組んだこと、その成果について、また取り組んでいく中での課題があれば、簡潔かつ具体的に記入してください）

① 人口減少や少子高齢化による行政資源の減少が見込まれる一方で行政サービスの多様化が進む中、安定的な収入源の確保や将来を見据えた行政サービスの見直しなどにより、行財政運営を継続させることを目的とした行財政改革プランを実施し、税収納率の向上やふるさと納税の寄付増額、施設使用料の見直しなどの財源の確保には一定の成果を得たが、引き続き、事務事業の見直しや業務の効率化にあわせて職員数の適正化を図ることや公共施設の整理を進めるなどのさらなる取り組みが必要とされる。

4 職員の能力向上と能力を活かせる仕組みをつくります

令和6年3月に改定した「高梁市人財育成・確保基本方針」に基づき、階層別研修や時代の変化に応じた各種の研修の実施、派遣等により社会情勢の変化に対応できる職員の育成を図った。また、育った能力を活かす仕組みづくりとして、自己申告制度によるキャリア志向を把握することで適材適所の人事配置により、組織全体の活性化に繋がっている。一方で、公務員離れや売手市場の状況下で、採用試験応募者自体が減少し、人材の確保に苦慮している。

人事評価制度の勤勉手当の処遇反映について令和5年12月から実施。成果や能力が評価されることで、職員のモチベーション向上や、面談により部下の強みや課題を把握することで、人材育成や職場環境づくりに繋がっている。一方で、評価者（上司）の評価スキルのバラツキや、事務的な煩雑さなど評価の効率化や、公平性の向上が求められており、今後一層の職員の能力やモチベーションが向上させるため制度のブラッシュアップを進める必要がある。

土木工事、建築工事等に従事する職員が不足している現状を改善するため、人材の育成、自己研鑽意欲促進することを目的に、市職員建設工事資格取得助成金交付制度を令和6年度創設した。（令和6年度実績なし）

横断的政策 1 人口減少対策に取り組みます

施策 1 移住・定住の促進

1 シティプロモーションを推進します

令和 4 年 3 月に策定した「高梁市シティプロモーション戦略」に基づき、令和 5 年 3 月にはブランドメッセージ「わたしあうまち高梁市」を作成した。

令和 5 年度以降「わたしあうまち高梁市」の浸透とシビックプライドの醸成を図るための施策の展開として、「わたしあうまち高梁市」の公式 Instagram の開設や、田舎暮らし情報誌「TURNS」への誌面掲載（R5）、様々なジャンルの市民を紹介した「高梁ひと図鑑」（R5）の作成、中学・高校・大学生の活動やプロジェクトを応援する「高梁みらい共創チャレンジ事業」などに取り組んだ。今後もこの戦略に基づき、中長期的な視点で継続的なプロモーション活動を展開していくため、PDCA サイクルにより進行管理に取り組んでいく。

2 関係人口を拡大します

高梁 ist 制度は「高梁 ist」として登録することで、自ら率先して高梁の魅力や情報を全国発信していただけることを期待して事業実施してきたが、現状ではシティプロモーションや関係人口拡大に発展するアピール効果は期待できず制度終了とし、今後の情報発信の手法としては、公式 SNS からの情報発信へ移行した。令和 6 年度までに保育園留学やふるさと回帰同窓会開催補助制度を実施したが、関係人口創出への一定の効果はあったものの、拡大深化を図ることまでは困難であり事業終了としたため、新たな関係人口のための事業を検討していく必要がある。企業版ふるさと納税は、前年度同様高い水準の納付金額を受領した。引き続き積極的な PR を行い、企業版ふるさと納税を契機とした関係人口の創出につなげていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
ふるさと納税の件数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	3,744件	15,312件	17,795件	16,819件	17,147件	20,000件

3 都市部からの人の流れを拡大します

令和 4 年度から移住コンシェルジュを配置し、対面及びオンライン形式での移住相談体制を構築している。空き家の現地案内では移住受入団体や各地域市民センターと、就農希望者への対応については農林課等との連携協力に努めている。令和 6 年度の移住コンシェルジュの相談件数は 99 件で、そのうち移住まで結びついたのは 12 件 23 人である。

平成 23 年度から委嘱開始した地域おこし協力隊は令和 6 年度末現在 26 人に委嘱し 16 人の移住につながっている。また、協力隊員の人材確保のため、令和 6 年度から新たに地域おこし協力隊インターン制度を吹屋地区で開始し、6 人をインターンとして委嘱した。そのうち 1 人は令和 7 年度から地域おこし協力隊として活動を開始している。また、空き家情報バンク制度においては物件登録・成約とも動きが活発化している。空き家対策特別措置法や民放（相続法）の一部改正を契機として空き家の流動化を促進し、移住の受入基盤として有効活用する。併せて空き家や農地を活用した地域ぐるみの移住受入体制の整備を引き続き働きかけていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値				目標値
空き家情報バンク制度成約件数のうち、市外からの移住につながった件数	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	31件	20件	21件	23件	31件	40件
地域おこし協力隊等外部人材の活用人数（国県制度等によるもの）	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	3人	6人	5人	6人	13人	8人

4 若い世代の定住促進を強化します

若い世代の定住促進に向けては、アンケート調査等から住宅取得支援に対するニーズが高いことから、新婚世帯に対する家賃等助成、分譲地の造成や子育て世帯向け賃貸住宅の整備促進など、住宅支援施策の充実に取り組んでいる。今後も若い世代のニーズにマッチした新たな対策を模索していく。

市内企業見学バスツアーの学生参加者は年々減少しており、令和 5 年度は 6 名であったが、令和 6 年度では開催に当たり学生に見学希望先のアンケートを行い、また開催日を高校入試で休校となる 2 月上旬とし、例年の 3 月末開催から変更した。こうしたことにより、学生参加者が 3 倍以上になるとともに、企業からは過去にバスツアーに参加した学生がこのツアーが契機となって当社へ入社したとの情報提供があるなど、徐々にその成果が表れている。

その一方で、就職面接会への学生等の求職者の参加が依然として少ない状況にあり、市内企業の人材不足が深刻化している。

5 コミュニティの機能維持に努めます

人口減少や高齢化が進行するなかで、コミュニティでの支え合い助け合う取り組みを推進してきたが、地域の担い手確保が地域課題となっており、人材がいない中での地域力低下が懸念されている。

地域組織の維持のためにも、町内会の負担軽減や広域連携などの対策を検討し、地域課題に対応した支援制度の実施を検討していく。また、地域における市民の移動手段の確保のため「高梁市地域公共交通計画」を策定し、地域の実情に応じた公共交通の再編・導入を順次行っていく。

横断的政策 2 災害に強いまちをつくります

施策 1 防災対策の強化

1 地域防災力の強化を図ります

自主防災組織結成に係る負担軽減を図りつつ、自主防災組織のカバー率の向上を目指す。消防団の勧誘及び設備を整備しながら引き続き訓練に取り組み地域防災力の向上を図って行く。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
地域自主防災組織のカバー率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	22%	36%	33%	38%	41%	100%	
防災士資格取得者数(累計)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	40人	69人	90人	106人	112人	80人	

2 防災学習の推進を図ります

マイタイムライン作成等に加えデジタル技術の活用による AR ゴーグルでの浸水疑似体験等を実施するなど、より実践的な出前講座や防災学習を積極的に進めており、引き続き、若年層から高齢者まで防災意識の一層の高揚に努める。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
マイ・タイムライン講習会開催数	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	2回	8回	11回	12回	11回	12回	

3 災害に対し強靱なまちづくりを進めます

ブロック塀等の撤去、建築物の耐震診断、木造住宅耐震改修について補助事業を実施し、高梁市耐震改修促進計画に基づき広報誌（チラシの配布）やホームページで撤去・耐震診断・耐震改修の啓発及び補助事業の案内をしている。

大規模盛土造成地が県の第一次スクリーニングで9箇所抽出され、令和4年度に第二次スクリーニング計画策定で現地調査・簡易地盤調査を実施して8箇所は経過観察、1箇所は切土で調査範囲から除外した。今後大きな変化が見られた場合は調査を検討する。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
公式ツイッターフォロワー数	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	400件	690件	947件	1,195件	2,000人	2,500件	
防災訓練参加者数(5年間累計)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	200人	230人	1,080人	1,730人	1,940人	1,500人	
危険なブロック塀等の解体撤去の件数 (累計)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	0件	0件	1件	1件	0件	50件	
大規模盛土造成地の安全把握調査(第 2次スクリーニング)	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	9箇所	

4 国民保護計画を推進します

国民保護情報（Jアラート）について、複数の伝達手段を確保し維持管理を適切に行っており、これら情報を活かすために、内部での情報共有をより一層密なものとするための方法を検討するとともに、住民参加の防災訓練の検討を進める。

5 消防、救急、救助体制を強化します

査察は火災発生危険、これに伴う人命危険を予防してもらうことを目的としており、消防用設備等の維持管理や防火管理体制等の指導に引き続き取り組む。

重要業績評価指標(KPI)	計画策定時	実績値					目標値
普通救命講習受講者	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	300人	63人	146人	318人	318人	400人	
防火対象物及び危険物施設査察率 (査察件数／査察計画数)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	47%	29%	17%	33%	57%	100%	

6 災害時避難行動要支援者への支援体制を強化します

令和6年3月現在で医療機関、社会福祉施設等と協定締結し、6施設を福祉避難所として確保しているが、市街地での福祉避難所の確保ができていないため、市街地における福祉避難所の確保に向けた働きかけをしていく。

重要業績評価指標(KPI)	計画策定時	実績値					目標値
福祉避難所設置数(累計)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	6施設	6施設	6施設	6施設	6施設	12施設	

横断的政策 3 未来革新技術を活用します

施策 1 Society5.0 の推進

1 情報通信基盤を整備します

令和 4 年度でケーブルテレビ網の幹線光化が完了し、市内全域で超高速インターネット環境の整備が完了した。

今後は、吉備ケーブルテレビと連携し、サービスの向上等を図り、ケーブルテレビ及びインターネットの加入促進に努める。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
ケーブルテレビ加入率	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	74%	74%	72.6%	71%	71%	74%	

※現状値加入率は、ケーブルテレビ運営事業者がとりまとめた数値を掲載

2 デジタル化を推進します

市民が必要とする子育て、介護関係の 26 手続や住民票等の申請をオンラインでも完結できるよう取り組んだ。

今後は、受け取った電子データを効率的に活用できるよう検討を進めるとともに、利用者にとっての価値の高い手続きをオンライン化できるよう、UX（ユーザー体験）の高い申請フォームの作成・作成支援を行う。

また、業務効率を図るため、あるべきプロセスを制度・体制・手法を含めて一から検討する B P R（業務改革）に取り組む。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値					目標値
行政オンライン化手続数	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	4件	4件	6件	53件	72件	49件	

※目標値は、国の「デジタル・ガバメント実行計画（令和 2 年 12 月 25 日閣議決定）」による数。ただし、都道府県手続き、高梁市にない手続きは除く。

3 スマートシティの実現をめざします

D X 推進アドバイザーの協力を得ながら、様々な分野における施策目的・課題を整理し、課題解決の手段としてデジタルツールを活用した。

高梁川流域連携事業や民間事業者と連携した高齢者等を対象にしたデジタルデバインド対策としてスマホ教室に取り組んだ。

今後は、高齢者等を対象にしたデジタルデバインド対策を継続していくとともに、デジタル人材の育成、拡充を図る。

令和7年度施策マネジメントについて

1. 施策マネジメントについて

「高梁市総合計画」には、高梁市がめざす都市像「健幸都市たかはし」の実現に向けた「基本理念」や「基本方針」、これらを実現していくための「政策」やそれを支える「施策」、その展開方針が示されています。

また、「基本構想の推進方針」の一つとして、次のとおり「評価・検証の方針」を定めています。

5. 評価・検証の方針

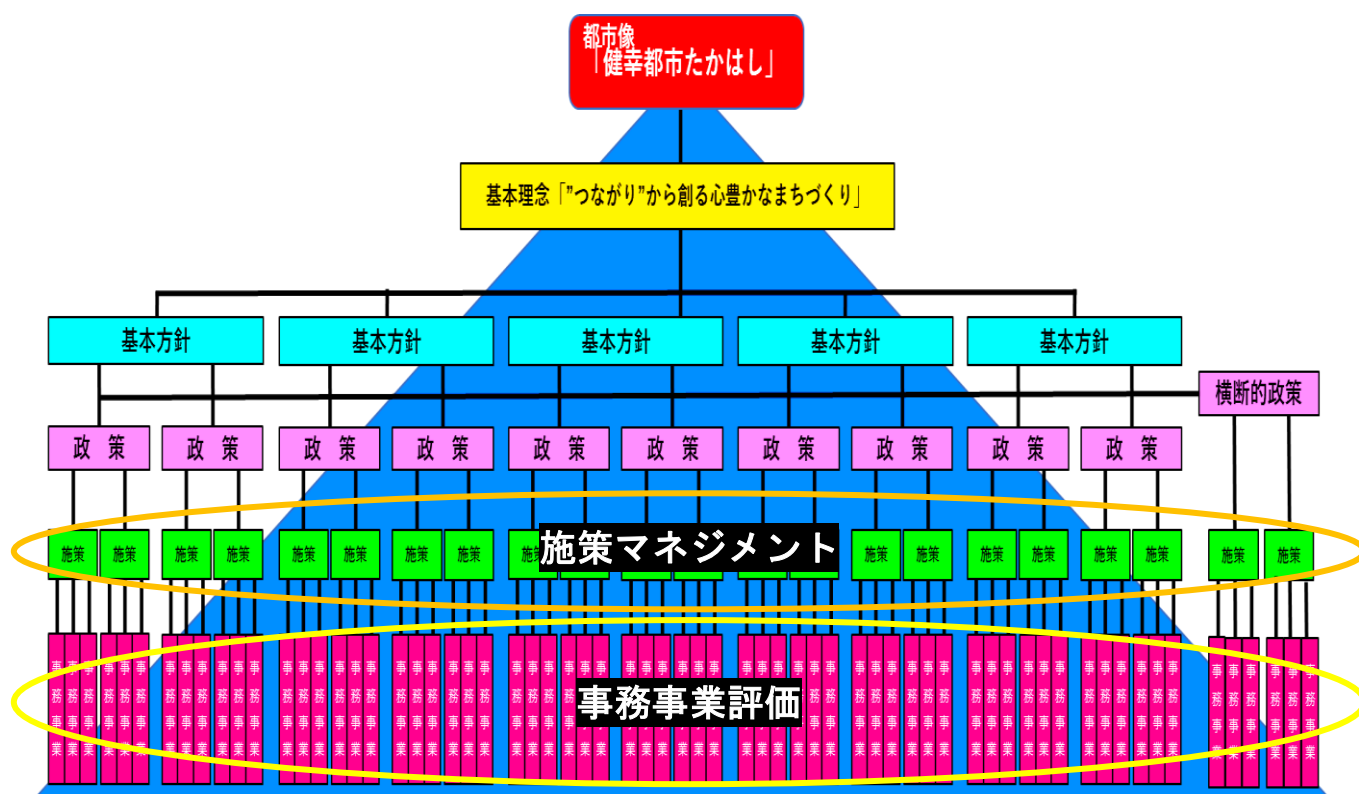
基本計画において、都市像及び長期人口ビジョンの達成状況を測るための基本目標指標を定めるとともに、この基本目標指標の達成に向け、各施策の効果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標）を定めます。

この基本目標指標と重要業績評価指標の達成状況を毎年把握し、庁内及び外部有識者会議での評価・検証も踏まえて、必要な見直しと改善を図り、翌年度への事業実施に活かしていくPDC Aサイクルを確立します。

「施策マネジメント」とは、「政策」を具体化して、各分野の方向性を示す「施策」について評価する制度のことです。毎年、「施策」の進捗状況を評価・検証し、今後の方向性を決定するもので、「事務事業評価」の基になる評価のことです。

総合計画では、「基本方針」の下に「政策」が、「政策」の下に「施策」が、「施策」の下に「施策の展開方針」が掲げられ、その下に様々な「事務事業」が連なっています。

「事務事業」の成果の一つひとつが「施策」の成果につながり、「施策」の成果の一つひとつが「政策」の成果へとつながり、最終的に都市像である「健幸都市たかはし」の実現をめざします。



2. 施策マネジメント実施の目的

(1)PDCAサイクルの定着

前期基本計画で定める「めざすまちの姿」や「目標指標」の達成に向け、P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）サイクルの定着をめざします。

(2)施策の着実な推進

解決すべき課題や見直すべき事項等を整理して、事業の推進や予算編成に反映することで、施策の方向性に沿った事業展開を図ります。

(3)透明性の高い行政運営

施策の評価・検証に市民が参画する仕組みを構築するとともに、毎年、施策の進捗状況を公表し、市民と情報を共有化することにより、透明性の高い市民協働の行政運営をめざします。

(4)目的意識を持った業務遂行

施策の目標や課題、進捗等を組織で共有するとともに、「めざすまちの姿」を再確認・再認識することで、職員一人ひとりが常に目的意識を持って業務を遂行することをめざします。

3. 施策マネジメント実施の流れ

- 6月 施策マネジメントシートにより、各施策の担当課で進捗状況の評価・検証を実施
- 9月30日 施策の進捗状況について、総合戦略推進本部（本部長：市長、部長級職員で構成）で協議
- 10月7日 高梁市まち・ひと・しごと総合戦略有識者会議（各種団体代表者等で構成）に進捗状況を報告し意見聴取を実施。
- 10月 有識者会議での意見を担当課にフィードバック。
「施策の進捗状況」について、市HPで公表。
- 10月～
11月 「施策マネジメント」及び「事務事業評価」の結果を基に、各所属において次年度予算編成